



チーム“HITS Dream”のFirStep登場のPK戦は会場の観客の1人と対戦。

ロボカップ2003 in Italy レポート

まつおか ゆきこ
松岡 由希子

(協力：日本SGI株式会社 いがらし ひろき 五十嵐 広希、国際基督教大学 もりやま ひろき 森山 弘基)

今年で7回目のロボカップ世界大会は、リーグ戦が7月5日から9日に、シンポジウムが10日、11日にイタリア北部のパドヴァ市で開催された。猛暑に見舞われて連日30度を越える中、224チーム、約1,200名の参加者と、12,000人の来場者が会場であるパドヴァフィエレを訪れた。会場となったパドヴァフィエレは、イタリアでも有数の展示会場。地元企業のロボット関連技術のブースも出展され、昨年にもまして増えた参加チームを配するために、ガラスのパーティションなどを効果的に利用した会場となっていた。競技では、日本から参加チームも大健闘！中型リーグではFUSIONチームが優勝、準優勝がWinKIT、ジュニア部門でも、ダンスでは小学生、中学生部門とも日本のチームが優勝を飾った。注目は、2年目のヒューマノイドリーグ。レスキューロボットリーグや、参加チームがダントツに増えたロボカップジュニア等を中心にレポートする。



会場風景

ヒューマノイドリーグ

ヒューマノイドリーグは昨年の福岡大会に続き、今年で2年目。参加チームは、日本が最多の3チーム、昨年も参加したシンガポールやカナダに加え、新たにロシアやフィンランド、ホスト国のイタリアが加わった。残念ながら昨年総合優勝したNagaraは出場しなかった。

競技内容は、ロボットのサイズ別(40cmクラス、80cmクラス、120cm以上クラス)に分かれ、福岡大会と同じ片足立ち、歩行、フリー演技、PK戦に加え、今回初めて1対1、2対2などの競技形式も行われた。命綱代わりの紐をひっかけ、チームメンバーが後ろで支えながらのプレー。関係ない方向へ蹴ってみたり、ディフェンスなのに後ろを向いてしまったり、と見所は多かった。とはいえ、今回は歩行だけでハラハラする場面も多かったことを言えば、対戦形式が採用できるレベルまで技術的に進歩しているともいえる。



ホンダ学園ではFirStepの演技指導特別班が顔の表情を考案。頑張っている表情、嬉しい表情など、顔のディスプレイを変えることで雰囲気を出していた。

今大会の注目株は、初参加ホンダ学園のチームHITS-Dreamとそのロボット“FirStep”。ホンダの初期ASIMOをベースにしているということもあり、安定したパフォーマンスをみせ、見事総合優勝に輝いた。PK戦では、対戦相手になる同サイズのヒューマノイドがなく、会場にいた男の子をリクルートして、初のヒューマン対ヒューマノイドという夢の対決となった。キーパー役の子は一步も動いてはいけない、というハンディキャップあり。それでもFirStepのキックしたボールを何度となく止めていた。人間に負けじとFirStepのほうも健闘し、何度かゴールラインを越える場面もみせた。

福岡では動かなかったスウェーデンの

Murphyは、今年も歩かず。フリースタイルにのみ参加し、メンバーからの質問に対して声で返答するというデモを行った。

フリースタイルと言えば、福岡では「六甲おろし」のパフォーマンスを披露した大阪大学のSenchans。今年はチームメンバーとの寸劇から始まるパフォーマンスで登場。見所は寝そべったロボットが起きるシーン。ブリッジのような体勢から自力で起きると、会場からは感嘆の声が上がった。そして、今後のヒューマノイドリーグの可能性を感じさせたスローインも披露。スローインにあわせて、もう1台のSenchansロボットがゴールに向かってキックするという連携プレーも見られた。

地元イタリアから参加のIsaakは片足立



HITS-Dream チーム、LVカップ(ルイ・ヴィトンカップ)の栄冠に！イタリアLVMHグループの会長からカップを授与されたチーム一同。



これがLVカップ(ルイ・ヴィトンカップ)